

岡谷市市制施行90周年

岡谷市は令和8年4月1日に、市制施行90周年を迎えます。

令和8年度は、市制施行から今日まで、岡谷市の歴史を築き上げて来られた先人の努力に感謝するとともに、輝かしい未来をともに祝うための記念の年度とし、さまざまな企画を予定しています。

岡谷市は、本年4月1日に市制施行90周年という輝かしい節目を迎えました。

私たちのまち岡谷は、かつて製糸業の世界的中心地として「シルク岡谷」の名を世界に轟かせました。その卓越した技術と進取の精神は、戦後、精密機械工業へと受け継がれ、本市は「東洋のスイス」と称されるまでに発展を遂げました。この「ものづくり」の伝統と誇りが、今日の本市の活力の源泉です。幾多の困難を乗り越え、現在の豊かな郷土を築き上げることができたのは、ひとえに先人たちの英知と情熱の賜物にほかなりません。

今日に至るまで、本市の発展にご尽力いただいた先人の皆様に深く敬意を表しますとともに、日頃より市政を温かく支えてくださっている市民の皆様に、厚く御礼申し上げます。

現在、私たちは人口減少やデジタル化の進展など、社会の仕組みが大きく移り変わる変革の時を迎えています。こうした時代において、先人から受け継いだ伝統と誇りを糧に、次なる100周年に向けて力強く歩みを進めていくことが、現代を生きる私たちの務めです。これからも、笑顔と元気があふれ、誰もが主人公として輝けるまちづくりを推進し、次代を担う子どもたちが夢と希望を持てる未来を、市民の皆様と共に創り上げていく決意を新たにしております。

結びに、岡谷市のますますの発展と、市民の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げます。市制施行90周年にあたっての挨拶いたします。

岡谷市長

早出一真



〈特集1〉

令和8年度 岡谷市の予算と事業

令和8年度は「次世代へ向けた まちづくり投資予算」

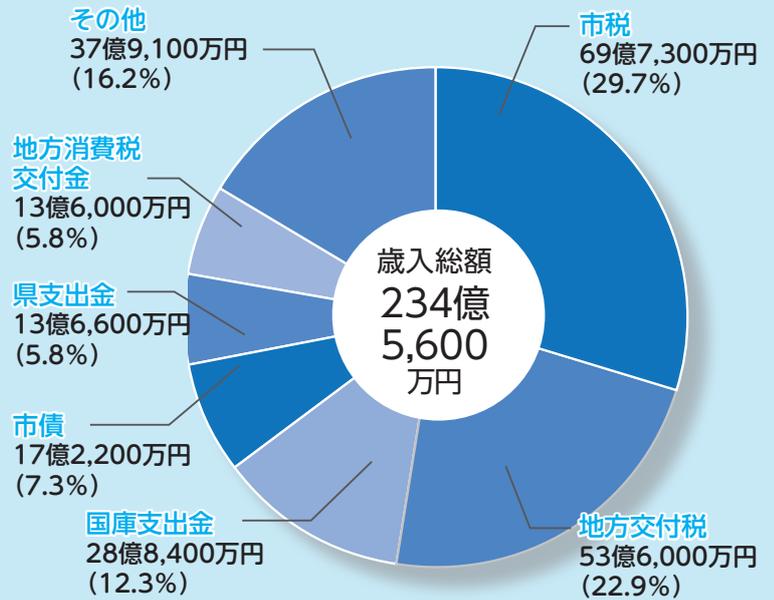
令和8年度は、第5次岡谷市総合計画後期基本計画によるまちづくりの3年目として、計画に掲げた目標の達成に向け、施策・事業を検証し、充実・発展させるとともに、将来都市像である「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現に向け、着実に歩みを進める重要な年となります。

こうしたことから、重点施策として、第5次岡谷市総合計画後期基本計画の重点プロジェクトである、「子育てしやすい環境の実現」、「安全・安心の伸展」、「未来に向けた産業の充実」、「魅力発信と賑わいの創出」を掲げ、各種事業を展開してまいります。

令和8年度 岡谷市 一般会計・特別会計・企業会計予算額一覧表	
一般会計	234億5,600万円
特別会計	55億8,020万円
国民健康保険事業	40億9,310万円
地域開発事業	2億3,350万円
分収造林事業	2,440万円
霊園事業	2,180万円
温泉事業	2,160万円
後期高齢者医療事業	11億8,580万円
湊財産区一般会計	190万円
企業会計	132億6,601万7千円
水道事業	14億9,533万6千円
下水道事業	27億9,832万1千円
病院事業	89億7,236万円
合 計	423億411万7千円

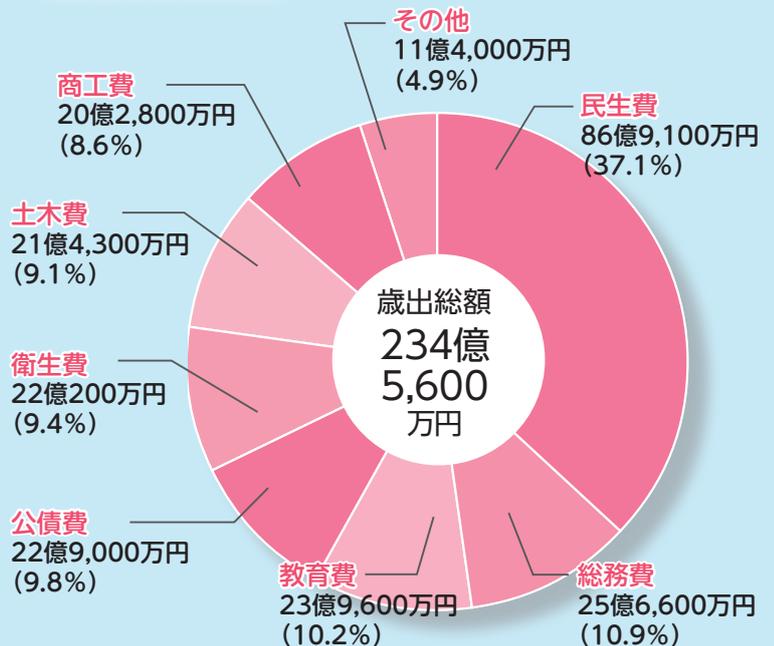
一般会計の歳入

市民のみなさんからの税金など、市が受け取るお金の内訳



一般会計の歳出

行政サービスなどを行うために、市が払うお金の内訳



予算、施策についての詳細は、「令和8年度わかりやすい予算説明書」をご覧ください。市のホームページよりダウンロードできます。



市ホームページはこちら

重点
施策

1 子育てしやすい環境の実現

とも育ちを実践し、輝く子どもをみんなで育てる

新：新規事業 **拡**：拡充事業

誰もが希望する年齢で結婚し、安心して子どもを産み育てることができるよう、結婚・妊娠・出産・子育て・教育の希望を叶える施策を展開するほか、世代間のつながりを育て、市民みんなが育つことができる「とも育ち」を実践します。

新

妊娠・出産手続きのDX化事業

子育て支援アプリ「げんきっずおかや」を機能強化し、新たに妊娠届提出時の来庁予約や妊娠期に必要な申請書等の記入をオンラインで行えるようにすることで、利便性を高めるとともに伴走型相談支援の充実を図ります。



新

乳児等通園支援事業 (こども誰でも通園制度)

みなと保育園において、0歳6か月から満3歳未満の未就園児を対象に、保護者の就労要件を問わず、保育施設等を利用できる制度を実施し、こどもの良質な成育環境を整えるとともに、保護者の多様な働き方やライフスタイルに捉われない支援を強化します。

拡

心の教室相談室設置事業 (心の教室小学校サテライト事業)

中学校の心の教室を小学校にも開設し、中学校の心の教室相談員がサテライト型により、小学校で児童の相談に応じていきます。

拡

川岸学園整備事業

異年齢の子どもたちをつなぐ新たな学び舎を創出するため、義務教育学校の令和9年4月の開校、および幼保連携型認定こども園の令和10年4月の開園に向けて川岸学園整備を進めます。



新

小学校給食無償化事業

子育て支援のさらなる充実を図るため、国が新設する交付金を活用し、給食費との差額分を公費負担することにより、小学校の給食費の完全無償化を実施します。

拡

中学校給食費 保護者負担軽減事業

中学校においては、給食費の3割を公費負担し、保護者の負担額のさらなる軽減を図るほか、低所得世帯に対しては、引き続き、就学援助による給食費の支給を10割支給とし、給食費の無償化を継続します。

重点
施策

2 安全・安心の伸展

健康で生きがいをもって過ごせる安全なまちをつくる

自然災害から市民の生命・財産を守り、誰もがいつまでも住み慣れた地域で、健康で生きがいを持って暮らし続けることができるよう、少子高齢社会に適応したまちづくりに取り組むとともに、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向けた取り組みを進めます。

新

福祉医療支給事業 (精神障がい者 入院医療費助成事業)

長期にわたる治療が必要な精神疾患の特性を踏まえ、新たに精神障がい者の入院療養費を福祉医療の助成対象とすることで、受給者の経済的な不安を軽減し、治療の継続的な支援と安心して療養できる環境を提供していきます。



新

住民税非課税世帯等 エアコン設置支援事業

住民税非課税世帯および生活保護世帯に対して、エアコン設置費用を助成することで、熱中症リスクの軽減を図り、市民の生命と健康を守ります。



拡

空家対策事業

空家所有者等へのアプローチや関係団体が主催する相談会への参加により、空家の発生予防と適切な管理を促すとともに、空家の解体にかかる費用の助成限度額を拡大することで、増加している空家の解消と利活用をより一層促進します。



新

水道施設耐震化事業 下水道総合地震対策事業

震災時のライフライン確保と被害の最小化を図るため、上下水道の総合的な地震対策を推進します。重要拠点へつながる上下水道管路の耐震化・強靱化を進めるとともに、下水道では避難所等にマンホールトイレを設置することにより、避難時にトイレ不足とならないようにします。

※小井川小学校に設置したマンホールトイレ



重点
施策

3 未来に向けた産業の充実

生産性を向上させ、安定した雇用を創出する

既存産業の活性化や生産性向上に取り組むほか、企業誘致、新規創業支援により、しごとをつくり、安心して働くことができるよう雇用の創出を図ります。また、担い手の確保、事業承継支援により、先人が築き上げてきた産業の財産を次世代へと引き継ぎます。

拡

新技術・新製品等 ものづくりチャレンジ 企業応援事業

新たにBtoC開発チャレンジ枠を設け、市内製造業の技術力を活かした一般消費者向け自社ブランド製品の開発を支援し、消費者への直接的なアプローチにより、企業価値の向上や知名度の拡大を後押しします。



新

中小製造業省エネ・ 脱炭素促進事業補助金

エネルギー価格の高騰と地球温暖化対策に取り組む市内製造業に対し、省エネルギー化および脱炭素化に資する設備投資を支援することで、エネルギーコストの削減による経営の安定化、地域産業の持続的な発展に取り組めます。



新

すべての人に選ばれる職場 ショート動画でPR事業

ショート動画を活用したSNS発信を採用活動に導入し、人材確保につなげるセミナーを開催します。あわせて、専門講師と工業振興課職員が訪問し、動画作成・SNS運用について、無料で相談・指導し、採用力強化を支援します。



新

遊休農地で 農ある暮らし事業 (地域おこし協力隊)

遊休農地の発生抑制と利活用の促進を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、遊休農地で農作物等を栽培するほか、収穫物のブランド化・販路開拓等を実施します。



重点
施策

4 魅力発信と賑わいの創出

選ばれるまちを実現し、まちの活性化を生み出す

岡谷市ならではの「自然資産」や「ものづくり資産」などの地域資源の再発掘と、魅力と賑わいにあふれ、多くの人から選ばれ住み続けたいと思われる地域づくりを進めるとともに、効果的な情報発信により本市の認知度を高め、関係交流人口の増加と移住・定住を促進します。

ブランド推進事業 移住定住促進事業 (地域おこし協力隊)

各分野を担当する地域おこし協力隊とともに、養蚕振興や製品開発を通じた「岡谷シルク」の地域ブランド化の推進、あわせて移住定住施策の企画運営を通じたシティプロモーションの推進により、岡谷市の知名度向上と新たな人の流れの創出をめざします。



信州やまなみ国スポ・ 全障スポ推進事業

令和10年に長野県で開催される、信州やまなみ国スポ・全障スポにおいて、本市では、卓球競技およびアイスホッケー競技のほか、公開競技として綱引競技、また、諏訪湖周の2市1町での共同開催によるトライアスロン競技を開催します。大会の開催に向けて、気運の醸成を図ります。



旧岡谷市役所庁舎 保全事業

国の登録有形文化財であり、岡谷市および市民の貴重な財産である旧岡谷市役所庁舎を後世に確実に継承するため、有識者による保全・活用方針の検討を引き続き進めるほか、市民参加型ワークショップによる保全活動などを通じて、関心を持ってもらうなど各種の取り組みを実施します。



岡谷駅周辺整備事業

「岡谷駅周辺まちの将来ビジョン」に掲げる、めざすまちの将来像「岡谷駅エリアからはじまる みんなで織りなす 魅力の連鎖」の実現に向け、市民・行政が連携してまちづくりを推進していくため、ララオカヤの解体に着手するとともに、公民連携体制の構築を進めます。



「これからも全部署が一丸となつて、邁進を」まいしん

岡谷市民病院名誉院長 兼 岡谷市相談役

天野直二



―病院事業管理者としての8年間を振り返つて―

一番印象的だったのは、病院には多くの職種が関わっていて、みんなの気持ちが一丸となつて病院全体が良い方向に向かえたこと、これに尽きます。コロナ禍では、院内感染を防ぐための万全の体制を整え、大きな支障をきたすことなく病院機能を維持してきましたが、これは全部署が力を合わせて邁進し成し遂げた結果であつて、大変誇らしく思っています。

―退任を決意した理由は―

年齢を考えてのことで、若い世代に病院運営を託す良い機会だと考えています。内山先生は、患者優先で経営も考えられる前向きな方ですので、安心して引き継げます。

―退任後も岡谷市民病院でどのように診療を続けられるか、また岡谷市初の市相談役にもなられるとのことだが―

これまでと同様に、外来診療や病棟回診などを継続して行つていきます。また、市相談役ということですが、行政の立場からも考える必要がありますので、効率良く、公正に取り組んでいきたいと考えています。

―これからの岡谷市民病院について―

岡谷市民病院は、急性期から回復期、慢性期、終末期、そして感染症を担う病棟機能を兼ね備えた多機能な総合病院で、地域医療の拠点として市内や湖北地域などの医療を守る重要な役割を担っています。昨今では、医療費の抑制を基調とする診療報酬制度に賃金引上げや物価高騰の影響が加わり、病院経営は大変厳しい状況が続いています。

す。苦難のなかではあります。が、それでもこの状況をみんなが認識し、全部署が力を合わせ一丸となれば、この難局も乗り越えられると信じています。

―市民のみなさんへひとこと―

これまで多くのご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。立場は変わりますが、これからも岡谷市民病院の発展を支えていきますので、温かい目で見守ってください。健康に気をつけて、みなさんが健やかに生活されることを願っています。

事業 新体制へ



令和8年4月1日より、内山医師が「岡谷市病院事業管理者」に就任し、これまで病院事業管理者を務めた天野医師は、岡谷市より「名誉院長」の称号を受けて岡谷市民病院での勤務を継続するほか、「市相談役」として岡谷市の行政を支援します。

Naoji Amano

天野直二 医師

横浜市立大学医学部卒。信州大学医学部附属病院病院長を務めた後、平成27年4月に岡谷市民病院病院長に着任。平成30年4月より病院事業管理者兼病院長、令和4年4月に病院事業管理者に就任。「シニアこころ診療科」の外来診療や病棟回診などを精力的に行っている。令和8年4月より名誉院長兼市相談役。

岡谷市病院

〈特集2〉

「地域のみなさんに質の高い医療を安定的に提供したい」



今回は、天野名誉院長に病院事業管理者として勤めた8年間を振り返っていただくとともに、内山病院事業管理者にこれからの病院事業についてお話をうかがいます。

問合せ ● 岡谷市民病院 ☎ 23-8000

―病院事業管理者就任にあたり、今の
お気持ち―

非常に身の引き締まる思いです。病院事業管理者は経営の最高責任者ということで、これからは院外と院内の両方に携わっていかねばなりません。これまでどおりというわけにはいきませんが、臨床も継続して行い、病院事業管理者の責務をしっかりと果たしていきたいと思っています。

―これからの病院事業について、どの
ような取り組みを進めたいか―

天野先生が守ってきた幅広い診療機能で患者を見守る体制を維持していきたいと思っています。また、高齢化の進行に伴い、併存疾患を抱えて包括的なケアを必要とする高齢の患者さんが増えており、医療ニーズ変化への対応が必要であると実感しています。岡谷市民

病院の強みである多機能を活かした総合的で専門性の高い医療を安定的に提供するほか、地域の実情に根ざした在宅医療、介護連携などにも力を入れ、地域の需要にしっかりと応えていきたいと思っています。

―今後、取り組むべき課題は―

先ほど天野先生が述べたとおり、病院を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、持続的に質の高い医療を提供するには経営の安定が不可欠です。今後は、国の施策である医療DXを積極的に活用して業務の効率化を図るほか、すべての職員が目標を持って成長できる環境を整えるなど、病院の質の向上に努め、持続可能な病院経営を行っていききたいと考えています。

また、今年の6月には厚生労働省による診療報酬の改定が控えています。

改定の内容を十分に精査し、病院経営の方向性について検討を重ね、病院が進むべき方向に全部署が一丸となって邁進していきたいと考えています。引き続き、国の動向を注視しつつ、地域の医療にとって一番良い選択をしていきたいと思っています。

―市民のみなさんにひとこと―

岡谷市民病院の強みや特徴を伸ばしつつ、基本理念である「思いやり」に基づき、全部署が協力して地域のみなさんに質の高い医療を安定的に提供できるよう全力を尽くしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

岡谷市病院事業管理者 兼 岡谷市民病院病院長

内山 茂晴



Shigeharu Uchiyama

内山 茂晴 医師

群馬大学医学部卒業後、信州大学整形外科へ入局。同大整形外科運動機能学教室にて研鑽(けんさん)を積み、准教授に就任。平成29年1月に岡谷市民病院に着任。令和2年4月より副院長、令和4年4月に病院長に就任。豊富な経験と高度な技量で数多くの手術をこなす。令和8年4月より病院事業管理者兼病院長。